

2023年度

学校推薦型選抜・社会人選抜

試験問題

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
- 3 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があります。
※解答開始の合図の直後に必ず記入してください。
 - ① 氏名欄
 - ② 受験番号欄
- 4 解答は、黒の鉛筆またはシャープペンシルで解答用紙に記入してください。問題冊子の余白部分は下書き等に使用しても構いません。
- 5 試験時間は90分です。
- 6 試験終了後、問題冊子は回収しますので持ち帰らないでください。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「ビートルズは誰もやらないことをやっていた。コードにしても型破りだった」^(注1)

こう語るのはボブ・ディランだ。^(注2)

ディランによらず、はじめてビートルズの音楽にふれた人びとの証言をかき集めると、「独創的だった」「変わっていた」「違っていた」「不思議だった」という表現によく出くわす。そこでビートルズは、いきおい「伝統を破壊した」といわれるのだが、果たして、そういきってしまっているのだろうか。伝統というものは、絶えず前衛^(注3)の波に洗われ、変形を余儀なくされて生きながらえるものである。前衛を拒絶する伝統は、そこで途絶えるか、もしくは^(注4)は因習となつて、やがて消えゆく運命にある。前衛を拒むものは死滅するのだ。いっぽう前衛もまた、絶えず伝統への尊重があつてこそ、前衛でいられるものだ。伝統のすべてを否定しては破壊主義者となんらかわりはない。

たしかにビートルズは革新的存在であつた。当時、彼らは前衛であつたが、伝統を全面的に拒絶していたかというとむしろそうではない。それどころか、彼らは伝統の継承者でもあつた。

ポールはこんなふう述べている。

「すべて模倣から始まつたんだ。これから曲づくりを始めようという人たちにはいいヒントになるよ。模倣はすべての始まりだからね」

これは、ビートルズが伝統の継承者であつたことを示す発言である。「学ぶ」の語源は「真似^{まね}ぶ」であるという説もあるように、模倣こそが上達への近道であるということポールはちゃんと心得ていた。ポールはまた、「作曲の技巧をはじめとする古い価値観を手放さずに、ロックンロールを受け入れるのは可能だと思った」とも語っている。

じつさい、デビュするまえは、バディ・ホリー、チャック・ベリー、ボウ・デイドリー、リトル・リチャードの楽曲をカヴァーしていたし、曲づくりにおいてはジェリー・リーバー&マイク・ストラーヤ、ゴフィン&キングのソングライターイング・チームを手本としていた。

ボブ・ディランにしてもそうだ。長いこと創作技法をわたしたちの目から遠ざけてきたが、二〇〇四年のインタヴューで「ソングライターになりたい者はできるだけたくさんの方ोक・ミュージックを聴いて、一〇〇年前から続く音楽の形態や構造を学んだほうがいい。ぼくはステイヴン・フォスターまでさかのぼっている」と述べて、過去から学ぶことの大切さを力説している。「風に吹かれて」はカーター・ファミリーのスピリチュアル（黒人霊歌）からヒントを得てつくられたことや、「時代は変わる」がスコットランドの民謡からインスピレーションを受けて書かれたということも明らかにした。

「独創」を手にするにはどうしたらいいのだろうか。

まずは「模倣」である。くりかえし真似てみるのだ。そして、うまく真似ることができるようになったら、そのデフォルメ（変形）をやってみる。ひねったり、こねたり、丸めたりする。これを飽かずにやっているうちに「独創」が視野に入ってくる。

ビートルズは「模倣」と「デフォルメ」に明け暮れた。修業期ばかりでなく、有名になってからもそれをくりかえした。

じつさい、ポールの名曲「ヘイ・ジュード」は、ドリフターズの「ラストダンスは私に」をくりかえしピアノで弾いているうちにひらめいたそうだし、「バック・イン・ザ・U.S.S.R.」は、チャック・ベリーの「バック・イン・ザ・U.S.A.」から拝借したものだ。歌詞もパロディだ。おまけにポールはエルヴィス・プレスリーに似せて歌っているし、ジョンとジョージはビーチ・ボーイズを真似てコーラスをつけている。結果、遊び心に満ちた傑作となつた。

ジョージは「サムシング」の歌詞で、ジェイムズ・テイラーの曲のタイトル「サムシング・イン・ザ・ウェイ・シー・ムーヴス」（彼女のしぐさの何気ないところ）をそっくり拝借している。いわば「本歌どり」をやっているのだ。しかし、それが「史上最高のラヴ・ソング」（フランク・シナトラ）になった。ジョージ本人も「最高にうまく書いた曲」と満悦だ。また、「ロング・ロング・ロング」では、ボブ・ディランの「ローランドの悲しい目の乙女」のコード進行を真似てつくっている。歌詞に出てくる「あなた」は、恋人のことではなく、神のことだとジョージは述べているが、歌詞の内容とワルツふうの調が見事に合わさって、美しい曲に仕上がっている。

リングがつくった「ドント・パス・ミー・バイ」（「ぼくを無視しないで」の意）は、リンダ・フラナガンが歌った「パス・ミー・バイ」にインスピレーションを受けて書かれている。リングの声とカントリーふうのアレンジがうまく調和して佳品になった。

もちろん、ジョンもパロディ曲をつくっている。いわずと知れた「カム・トゥゲザー」だ。チャック・ベリーの「ユー・キャン・キャッチ・ミー」にメロディがそっくりだが、いまやこのメロディだけを聴かされたら、誰もがビートルズの「カム・トゥゲザー」というであろう。二流のアーティストは真似にとどまるが、偉大なアーティストは自分のものにしてしまうという恰好かっこうの例である。「音楽はすべて焼き直し」であり、「ヴァリエーションがあるだけだ」とまでジョンはいいきっている。

伝統の楽曲に自分たちの音楽を重ねて、脈々と続いている流れにそれを返してあげる。そうすることで歴史はつながっていく。独創は教養的な重みをはねのけて創造されるのではなく、教養をうまく変換していくところに芽をだすのだ。

独創とは、模倣とデフォルメを基本とするものであり、それは伝統の継承者のみが成しえるものである。独創とは九九パーセントの模倣と一パーセントのデフォルメである——このことをビートルズはわたしたちに教えている。

『教養として学んでおきたいビートルズ』里中哲彦

（注1）ビートルズⅡ一九六〇年代から一九七〇年にかけて活動したイギリス・リヴァプール出身のロックバンド。ジョン・レノン、ポール・マッカートニー、ジョージ・ハリソン、リング・スターの四人のメンバーからなる。

（注2）ボブ・ディランⅡ一九四一年生まれ、アメリカのミュージシャン。ビートルズと同時代に活躍し、お互いに大きな影響を与えた。二〇一六年ノーベル文学賞受賞。

（注3）前衛Ⅱ芸術活動において、既成の概念や形式にとらわれず、先駆的な表現を試みること。

（注4）因習Ⅱ古くから伝えられてきた風習。多く、非難の意を含んで用いられる。

問一 本文を二〇〇字以内で要約しなさい。

問二 本文を読んで、「学ぶ」ということは、「伝統を破壊する」ことか、「伝統を継承する」ことか、自分の考えを八〇〇字以内で述べなさい。